

中国建築の近代化過程における建築家の言説に関する研究 —1950～1970年代の中国に於ける建築雑誌 に現れる建築用語の検出と統計的分析方法

正会員 ○ 姜 涌*
同 張 健*
同 近藤正一**
同 若山 滋***

1. 研究対象 1949年の中華人民共和国の成立以後、中国建築界は新しい社会主義的な仕組みを再構成し、それらは現在に至るまで中国建築界に強い影響を与え続けている。本研究は、現代中国建築思想の萌芽期である、いわゆる毛沢東時代の約30年間(1949～1978年)における建築界の討論や建築家の言説による建築理論や観念について、中心的役割を担い続けてきた中国建築学会の機関誌『建築学報』(1954年創刊)から建築家の建築思想の表現された論文を選択し、建築家が意識的に或いは無意識的に使用した用語によるポイントを統計的に定量化し、建築思潮の変遷を捉えることを目的とする。

2. 研究手順 【対象論文の抽出】『建築学報』は、中国建築界の全般的な状況を反映する総合的な雑誌であり、その中の著者の建築に対する観念がはっきり表れた建築総論・建築評論・建築創作論・設計方法論を含む論文、また、建築界に関する社説・会議報告・談話を研究対象とする。以上の視点により抽出された論文は、延べ18年間の刊行期間(『建築学報』は、政治的理由から、1954～1978年の間に3回休刊している)中、281篇となる。

【建築用語の選択・抽出】コンピュータによるデータベース検索等のためのキーワードの検出は、論文の主旨を表現する・研究範囲を現す・著者による造語など用語が当たる。しかし、研究対象としている論文にはこれらのキーワードに対する配慮がない。本研究は、上記の視野を参考とし、言語学によって用語のキーワードを抽出する。「文を構成する最も基本的な構成要素の一つ」として「命題(Proposition)は、文の伝える基本的な意味。命題の構造は、状態や行為や出来事を描写する動詞や形容詞などに対応する述語(predicate)と、その状態や行為や出来事に関する人や動植物や物などを描写する名詞などに対応する項(argument)とからなる。」¹⁾ 即ち、「命題」の「項」は、著者の描写・評論した事象(event)・状態(state)・コメント(comment)・意見(opinion)等を表現する名詞・名詞化動詞などである。

【キーワードの分類】上述の建築家の用語のキーワードを抽出し、統計する上で、言葉の意味深度・使用の枠組みに基づいてグループ化し、35種類のカテゴリーに分類する。これらをカテゴリーAとし、さらにグループ化を

進め、11種類のカテゴリーBを設定する。これらは図-1のようにまとめられ、建築学と社会・文化背景との繋がりに関して「社会背景-建築-文化背景」の横的な相互関係を持ち、建築学の分野の枠組みに関して「建築本体論-建築創作論-設計技法論」の縦的な関係として現すことができる。

【キーワードの指摘頻度の統計】カテゴリーによって、年代順の建築論文から抽出したキーワードに対する指摘頻度の絶対数(度数)を合計する。相対的な比較ができるように、毎年のカテゴリー毎に百分率も計算する。

【カテゴリーの相関分析】建築論文中における同じカテゴリーの指摘頻度の変化を統計的データとして、各カテゴリー間の相関分析を行い、相関係数を求めた。

3. キーワードの指摘頻度の統計的考察

【用語のキーワードによる建築家の言説の変遷】以上の定量的な作業より、図-2を作り²⁾、建築雑誌による建築家の用語及び建築界の動向を歴史的に考察する。

1) 建築家の言説の中で、政治に関する[イデオロギー/政治理論]³⁾と[社会論]の内容は、1950～1970年代の用語の全体的な中心となる。特に、「プロレタリア文化大革命」の直前とその間、これらの指摘度は急激に増え、指摘頻度の百分率は50%を越す。2) [建築文化論]と[建築様式論]については、非常に断片的に変化する。その分野の指摘度は政治状況によって上下しており、曲線の極点がイデオロギーを中心とする社会背景の分岐点を示し、建築界に対するイデオロギーの圧力の強さをはっきり表現した。例えば、「文化大革命」の初め頃、[文化論]・[建築文化論]・[建築様式論]のような建築様式について指摘度は、低調の0%となる。3) 共産党の「実用性、経済性、可能の限り、美観に注意する」という建築方針によって、建築機能や技術などの[建築社会論]の諸面が常に併用される。その上で、批判されやすい建築様式や建築思想などの討論を避けるために、建築家達が意識的に技術や規範などの即物的なテーマに注目する。【建築家の言説の組立】上述した建築家の用語におけるカテゴリーの相関分析より、その時代の建築言説の思想的な構成を分析する。1) 建築家達は、〈階級関係と社会制度〉・〈イデオロギー〉等の政治的言説を基準に、〈革

Architects' Discours in the Course of Architectural Modernization in China

---A Statistical Study on the Words in Chinese Architectural Journal in 1950-1970s'

JIANG Yong, ZHANG Jian, KONDO Shoichi, WAKAYAMA Shigeru

	Catalogue/2	Catalogue/1	Key-words
文化	文化理論/美学	芸術/美学	「美は生活である」/革命現実主義と革命浪漫主義・美学/審美/美学の概念・芸術/芸術性・文学と芸術・文芸界/文芸工作者/文芸隊伍
	文化論	文化と伝統/民族	文化/文化伝統/伝統文化・風俗/習慣・文化水準/文化の需要・歴史遺産・民族/民族文化/民族芸術・世界文化/文化の交流/外国の芸術と建築・自然・地理/文化の地域性
	建築文化論	建築歴史	古典建築/古代建築/建築遺産/・建築伝統/民族建築の伝統・中国建築/芸術/旧有建築/中国伝統建築・宮殿式/民家/道園・少数民族の建築・民族性・西洋古典建築/学院派/建築歴史の研究・法式/斗拱・梁架・古建の保護/古代記念物・中国營造学社・工建設/建築歴史の歴史
	建築様式論	伝統的な様式	法式/手法/作法・民族的な形式/風格/中国の建築/中国古代建築の形式・繪獅/傳統的な形式・大屋根/斗拱・民族色彩/裝飾・「四合院」/廳子/伝統空間
	建築様式論	手法/特色	風格/特色・色調・三段式/「北京法式」/中軸対称・雄偉・莊嚴/仕舞・裝飾/詳細部/扉
	建築様式論	様式/空間	都市の芸術な配置/街景の美観/街路の立面・建築群/建築群/街方の配置・総平面配置/平面の空間組合・正面形式/造形/外形/芸術な横図/建築設計・空間/空間構成/体型
	建築様式論	建築の時代性	現代主義・現代建築/現代派/「近代主義」/建築の現代化・流動空間・時代感/新形式/新建築・新様式・新形式/新技術の表現
	建築様式論	建築思想	社会主義の建築/新中国建築/社会主義風格・復古主義形式主義・形式主義/唯美主義・結構主義・機能主義・世界主義/構成主義/折衷主義
	建築様式論	建築風格	民族形式/伝統形式・梁思成的建築思想/文法/官廳学・可塑性/大屋根・民族風格/59年・中国的な建築/中国風格・特異/我が国の建築・歩み・「新」而「中」・新的建築風格・中国社会主义的新風格/劉氏・建築風格・地方風格・過渡時期の建築/今日の建築
	建築様式論	建築創作論/文化面	建築設計/創作・創作思想/水準/創造力/我が国の創作水平・建築形式/芸術形態・建築の眞實性/建築性格・建築の学習・継承と創造/新陳代謝/「精華」と「糟粕」・中外の経緯
建築	設計方法論	建築理論	建築の形式と内容・建築芸術/芸術性/建築の芸術価値・建築芸術の特質
	建築創作論	建築理論	建築理論/科学・建築/建築の法則・建築の本質/特徴・建築の両重性/物質性/精神性
	建築創作論	建築科学論/技術	科学的な態度・建築の習熟/批評・建築の社会条件・建築の社会任務
	建築創作論	建築方針/原則	社会主義現實主義・社会主義内容・民族形式・党の建築方針・適用性/経済性/美観・工業建築・技術先進/經濟合理・「百家争鳴」/自由討論・「創作自由」/個人創作・公式化/統一
	建築計画/技術論	都市計画/建設	都市計画/北京の總体規劃/哈羅新城市・都市建設/首都建設・市政建設と計画・旧城改造・都市計画管理/規劃局/都市計画委員会・都市計画の方法/年限/長期と短期計画
	建築計画/技術論	居住区と住宅設計	住宅建設・居住区の計画/街路配置・街方の配置/住宅組・兩辺式等・住宅建築/住宅設計
	建築計画/技術論	農村建築と人民公社計画	類型：外廊式/小面積住宅・住宅の層数・設計原則・住宅の標準設計/装配式住宅
	建築計画/技術論	工業建築/民用	農村建設/人民公社計画と建設・農村建築/住宅・農村居民点・田間工作点・農村住宅の院落/室内
	建築計画/技術論	建築機能と環境学	工業建築・工場・公共建築/民用建築
	建築計画/技術論	建築材料と結構	機能/居住条件/合理性/实用性・住宅の層高/設備・日照/向き・朝向・通風・自然環境/地域特徴/居住区的生活環境・緑化と小品
社会	建築社会論	建築の経済性	結構/材料/施工・構造形式/打点
	建築社会論	建築の実用性	構造價格/コスト/投資/節約・經濟指標/定額/住宅の面積・層高/建築面積/延床面積・建築密度/平面系数
	建築社会論	建築の技術性	建築の技術性
	建築社会論	設計管理/政策	投資/節約/消費・都市と農村用地の浪費・建築の標準/都市と農村計画の指標/住宅の標準
	建築社会論	建築界/組織	人間に対する關心/生活条件/衛生・労働条件/生活方式・建築の実用性/機能
	建築社会論	建築教育	建築の技術/技術革命/新技術・新材料・建築工業化/生産工場化・労働効率/快速設計・施工/工程質量
	建築社会論	革命と建設	「三結合」・現場設計/設計革命運動・集體設計/共產主義大協作・設計方法/模型/任預書・圖章と数字分析・設計規範/指標/政策・標準設計/体系設計/設計の標準化・設計経緯
	建築社会論	政治運動	建築師/設計隊伍・建築界/建築黨・設計院/部門・建築学会/管理/規則・「建築學報」
	建築社会論	イデオロギー/政治/社会意識形態	教育/教學改革/幹部の訓練・「五七公社」/關門閉学
	建築社会論	イデオロギー	社会主義革命/改造/過渡時期/革命/解放/無産階級專政・社会主義の新中国・社会主義建設/經濟建設/相國の建設・社会主義工業化/工業建設/農業生産・現代化・生産力/國の經濟条件/經濟基礎/物的な需要/生産方式・社会主義計面管理/經濟計面/國民經濟の總方針
建築社会論	政治思想と方法	大衆路線/大衆運動/大衆觀點/人民/大衆の思想と好み/工農兵に尽くす・動機/國の自立更生・總路線/工業黨大躍進/人民公社運動/合作化/都市公社化・権力論・頼綱憲法/大躍進	

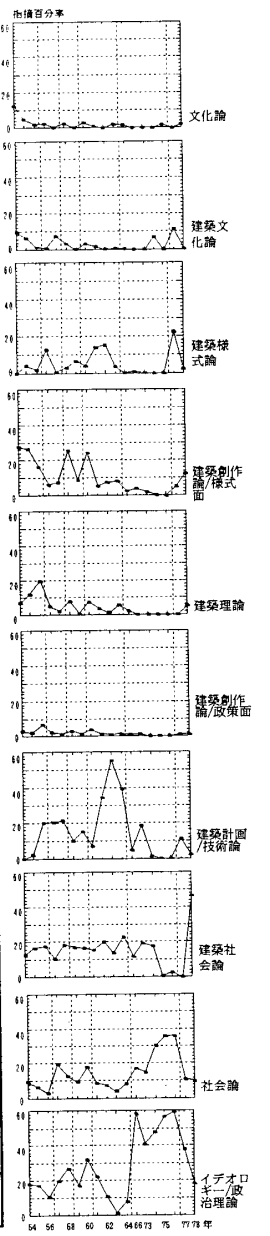


図-1 建築用語のキーワードとカテゴリーの分類

図-2 建築用語の指摘頻度の比較

命と建設)の現実の社会条件と任務を考慮して、〈建築界/組織〉・〈設計管理/政策〉を検討する。〈建築の実用性〉・〈建築の技術性〉・〈建築の経済性〉・〈経済学と経済指標〉は、共産党の〈建築方針/原則〉の諸面として、これらの間の密接する関係を強調する。2)〈建築芸術論〉と〈形式と設計方法〉は、それぞれのカテゴリーと繋がりが、1950年代からの「民族形式」の批判及び再構築・「社会主義の新風格」の議論・「建築形式と風格について討論」等、様々な論争の目標になり、この時期における建築家の建築芸術に対する模索の中心である。3)〈文化と伝統/民族〉と〈伝統建築〉・〈伝統的な様式〉・〈芸術/美学〉は、建築家の民族性、伝統性に対する追求を表現したものである。特に、〈伝統建築〉は、「民族形式」の

提唱とその直後の批判の中心を占め、〈建築思想〉、〈建築風格〉等の重要な部分になる。他方、〈建築の時代性〉と〈建築の実用性〉・〈建築の技術性〉・〈形式と設計方法〉・〈建築風格〉の関係は、建築家が技術と様式の近代性を求めたことを示す。これらは、当時の建築家の近代化と民族化の両立する要求を現している。

注：1) 阿部純一、ほか2名：人間の言語情報処理—言語理解の認知科学, p142, サイエンス社, 1994年。2) 図-2は、11のカテゴリー/2の〈文化理論/美学〉と〈文化論〉を合計し、〈文化論〉として示す。年代順の網線が、この時期で分類できる6段階を示す。3) カテゴリーA・カテゴリーBの内容は、〈〉・[]のような括弧の中に入れられ、標示される。

* 名古屋工業大学社会開発工学科 大学院生・工修 Graduate Student, Nagoya Inst. of Technology, M.Eng.
 ** 名古屋工業大学社会開発工学科 助手・工修 Research Assoc., Nagoya Inst. of Technology, M.Eng.
 *** 名古屋工業大学社会開発工学科 教授・工博 Prof., Nagoya Inst. of Technology, Dr.Eng.